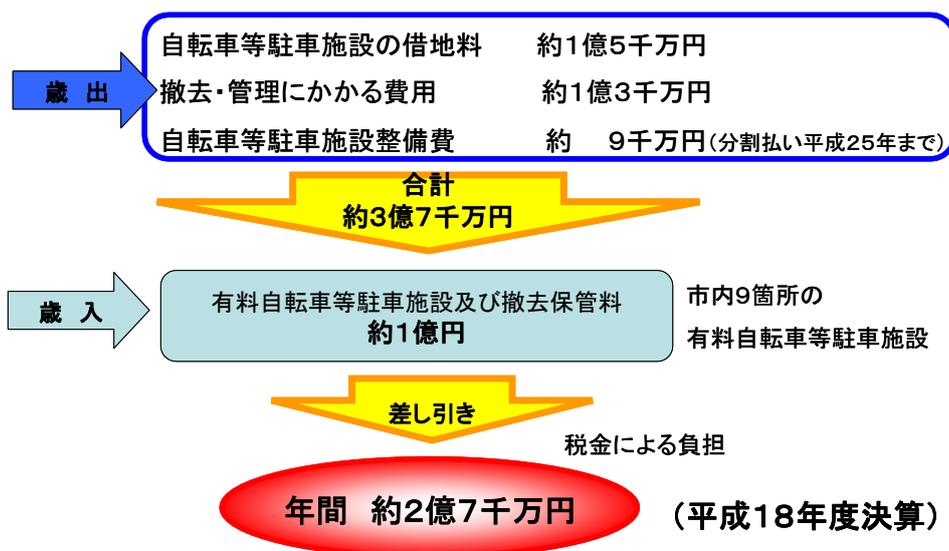


3 施設の運営管理の適正化

計画 14	市内全施設の有料化	《中期計画》
計画 15	利用者のニーズに応える幅広い料金制度の導入	《短期計画》
計画 16	無人式 24 時間管理システムの導入検討	《長期計画》
計画 17	満空情報システムの導入検討	《長期計画》

調布市では、駐車環境の維持・向上のため、既設自転車等駐車施設の借地料として約1億5千万円、新たな施設整備費（建設、用地取得等）として約9千万円、違法駐車対策のため、自転車の撤去や整理に要する費用として約1億3千万円など、自転車等駐車対策費用として年間約3億7千万円を支出しています。

一方、歳入は、市内9箇所の有料自転車等駐車施設の使用料収入が1億円、撤去した自転車の返却時に徴収する保管料が6百万円など、年間約1億円であることから、年間約2億7千万円を税金で賄っています。



計画 14 市内全施設の有料化

市内 45 箇所の自転車等駐車施設のうち、飛田給駅周辺の施設は全てが有料化されていますが、他の駅では有料及び無料施設が混在しているか、または、無料施設のみとなっています。

今後については、平成 20 年度から条例を改正し、平成 21 年度より駐車施設の容量確保がされた駅周辺から随時施設の有料化を図り、原則的に市内全ての施設を有料化します。

《有料化によるメリット》

平成 17 年度に実施した自転車等利用者へのアンケートでは、駐車施設を有料化した場合には利用しないと回答した方も多いことから、有料化に伴って近距離での自転車利用が抑制

されることが予想されます。

適正な自転車利用は、駐車施設の整備費など自転車等駐車対策費用の軽減につながり、また、有料化により使用料を頂くことは受益者負担による公平な行政運営となります。さらに、恒久的な駐車施設設置のための借地の買上げや、利用・駐車マナーの向上といった効果も期待されます。

《有料化の手順》

原則的に市内全ての自転車等駐車施設を有料化しますが、次のような条件が整った地域から順次有料化していきます。

- ① 権利者の承諾を得た地域、あるいは、長期間使用が可能となる用地を確保できた地域
- ② 既存施設の多層化などにより、概ね駅周辺の収容可能台数が確保できた地域
- ③ 連続立体交差事業や各駅周辺の街づくりの動向に合致している地域
- ④ 施設整備時における利用者に配慮した工事工程の調整や、工事期間中の代替地が確保できた地域
- ⑤ 施設の位置、構造による料金の細分化など、利用者を分散・誘導する利用率などを検討した地域

計画 15 利用者のニーズに応える幅広い料金制度の導入

現行の料金体系は、屋根の有無にかかわらず同一料金であり、契約期間は最長で3ヶ月までとなっていることから、基本料金（自転車・地下及び1階）は周辺自治体の状況も参考に、利用者のニーズに応えた細分化を図り、平成21年度から施設の構造に沿った料金表とします。また、6ヶ月契約の新設や学生及び長期契約に対する割引率の拡大、市民以外の利用者料金の追加などについても実施します。なお、日極の料金は、現行料金と同額とします。

《見直し方針》

- ① 施設の構造による料金の細分化
- ② 長期（6ヶ月）契約の新設
- ③ 学生、長期契約に対する割引率の拡大
- ④ 市民以外の利用者の料金を追加
- ⑤ 商店街における買い物などの短時間利用者が利用しやすいよう、時間制料金を追加

◇ 現行

車種		月極 (月額[円])	日極 (日額[円])
自転車	地下・1階	2,000	100
	2階	1,600	
	屋上	800	
原動機付自転車	屋根付き	3,000	150
	屋根無し	2,500	
自動二輪車	屋根無し	4,000	200

◇ 改正後(案)

車 種				1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月
自転車	屋内	地下・1階	一般	2,000 (2,500)	5,400 (6,900)	9,600 (12,600)
			学生等	1,800 (2,300)	4,800 (6,300)	8,400 (11,400)
		2階	一般	1,600 (2,100)	4,300 (5,800)	7,600 (10,600)
			学生等	1,400 (1,900)	3,700 (5,200)	6,400 (9,400)
		3階	一般	1,200 (1,700)	3,200 (4,700)	5,700 (8,700)
			学生等	1,000 (1,500)	2,600 (4,100)	4,500 (7,500)
	屋外	1階	一般	1,500 (2,000)	3,900 (5,400)	6,600 (9,600)
			学生等	1,300 (1,800)	3,300 (4,800)	5,400 (8,400)
		2階	一般	1,100 (1,600)	2,800 (4,300)	4,600 (7,600)
			学生等	900 (1,400)	2,200 (3,700)	3,400 (6,400)
		3階	一般	700 (1,200)	1,700 (3,200)	2,700 (5,700)
			学生等	500 (1,000)	1,100 (2,600)	1,500 (4,500)
原動機付自転車	屋内	一般	3,000 (3,500)	8,100 (9,600)	14,400 (17,400)	
		学生等	2,800 (3,300)	7,500 (9,000)	13,200 (16,200)	
	屋外	一般	2,500 (3,000)	6,600 (8,100)	11,400 (14,400)	
		学生等	2,300 (2,800)	6,000 (7,500)	10,200 (13,200)	
自動二輪車	屋内	一般	4,500 (5,000)	12,100 (13,600)	21,600 (24,600)	
		学生等	4,300 (4,800)	11,500 (13,000)	20,400 (23,400)	
	屋外	一般	4,000 (4,500)	10,600 (12,100)	18,600 (21,600)	
		学生等	3,800 (4,300)	10,000 (11,500)	17,400 (20,400)	

※1 ()は市外在住利用者の施設利用額とする。

※2 学生等とは、次の(1)から(3)のいずれかに該当するものとする。

(1)学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づく学校、専修学校及び各種学校に通学する者

(2)生活保護法(昭和25年法律第144号)に基づく生活保護を受けている者

(3)身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)に基づく身体障害者手帳、東京都愛の手帳交付要綱(昭和42年民児精発第58号)に基づく愛の手帳又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)に基づく精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者で市長が特に認められたもの

※3 駅から直線距離にて概ね300m以上離れている施設については、現状で利用率が低いことから、月極で半額とする。

※4 駅から直線距離にして概ね500m以上離れている施設については、現状で著しく利用率が低いことから、無料施設とする。

◇ 改正後(案)

《商店街利用者を対象とした時間制料金》

車種	時間制
自転車	駐車施設の位置、規模及び利用料金等については、近隣商店街等利用者の状況を確認しながら、平成20年度から検討する。
原動機付自転車	

表 8 隣接地域の自転車等駐車施設利用料金

	利用料金	備考
狛江市	月 2,000 円 (2,600 円) 日 150 円 (200 円)	—
三鷹市	定額 月 2,300 円 日 150 円	別途登録手数料 市内 3,000 円 (学生 2,000 円) 市外 4,000 円 (学生 3,000 円) ※原付はプラス 1,000~2,000 円
	時間 3 時間まで無料 3 時間以上 150 円 ※以降入庫から 24 時間ごとに 150 円追加	
世田谷区	自 月 1,300~2,000 円 原 月 2,500~3,000 円 ※それぞれに学割あり	—
府中市	自 月 1,600~2,000 円 ※割引制度あり 自 日 100 円 (150 円)	有料制・許可制
川崎市	自 月 1,500~2,000 円 原 月 2,000~2,500 円	—

注) 自：自転車 原：原動機付自転車
出典) 東京都青少年・治安対策本部 「平成 17 年度調査 駅前放置自転車の現況と対策」
川崎市ホームページ

表 9 施設形態によって細かく決められた料金
(練馬区大泉学園駅北口地下自転車等駐車場)

		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月
地下1階上段	一般	1,500	4,200	7,200
	学生	1,000	2,800	4,800
地下1階下段	一般	2,000	5,700	9,600
	学生	1,500	4,200	7,200
地下2階上段	一般	1,200	3,400	5,700
	学生	700	1,900	3,300
地下2階下段	一般	1,700	4,800	8,100
	学生	1,200	3,400	5,700

資料) 練馬区ホームページ

計画 16 無人式 24 時間管理システムの導入検討

管理人件費を削減する目的等から、既に一部の施設については導入されていますが、他の施設についても平成 21 年度から 24 時間無人管理が可能なゲート式システムの導入が図られるよう、検討及び調査します。

表 10 24 時間管理システムの特徴

	有人管理	無人管理
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 整理整頓が逐次可能である 	<ul style="list-style-type: none"> 人件費の抑制が可能である
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 管理人の常駐時間に比例して人件費を必要とする 	<ul style="list-style-type: none"> 初期コストがかかる（標準タイプで約 10,000 千円強） ※リース対応も可能



資料) (株) サイクルテクノ



資料) 東海技研 (株)

計画 17 満空情報システムの導入検討

「駐車施設に到着したが、満車のため駐車できない」、「他に空いている駐車施設が分からない」といった理由から、自転車等を放置してしまう利用者の行動を解消するために、満空情報システムの導入を平成 20 年度から検討します。

また、自転車等駐車施設表示看板については、放置禁止区域も分かるように掲載し、情報システム導入とともに設置について検討します。

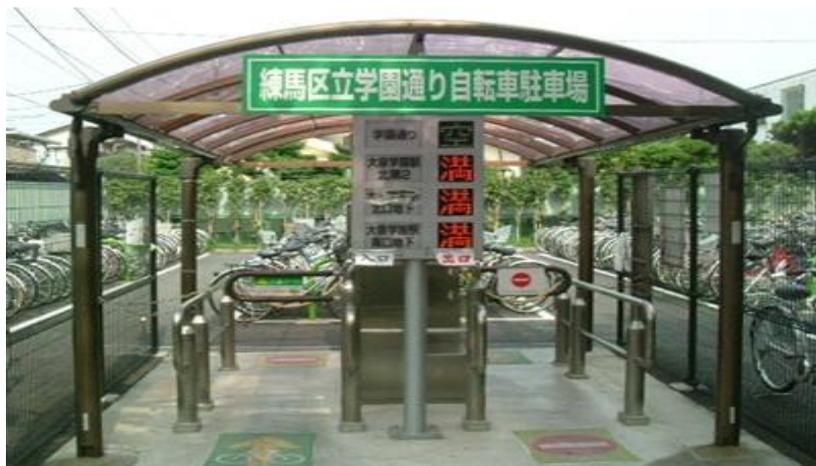


図 3 満空情報システムの導入例（練馬区）